

学校だより
NO 11
R6 11/27

敬 愛 (けいあい)

学校教育目標

一人一人の個性を伸ばし、自ら学ぶ生徒の育成を図る

甲斐市立敷島中学校
編集 校長 山本成利

絆を感じ、仲間と創りあげた敷中サウンド～合唱祭に学ぶ～

今月、鋭い感性で生み出し親しみやすい詩で知られる現代を代表する詩人の谷川俊太郎さんが亡くなりました。谷川さんの詩は小中学校の教科書への掲載をはじめ、『信じる』や『春に』をはじめ、合唱曲の歌詞として多くの作曲家によって取り上げられ、今も歌い継がれています。ご冥福をお祈りいたします。

さて、11月15日(金)に敷島中の伝統ある「合唱祭」を開催しました。思い起こすと、去年はインフルエンザのまん延もあり、残念ながら学級閉鎖で参加できないクラスもありました。しかし、今年度は全クラスが参加することができました。短い取組期間のなかで合唱をつくりあげるには、クラス全員の主体的な取組が必要です。私は、合唱をつくりあげるためには、いくつかの壁をのりこえなければならないと思っています。のりこえた壁の先には感動があります。どの学級、学年もこれまでの練習の成果を十分に発揮し聴かせてくれました。年輪祭の発表から大きく成長し、会場を驚かせた1年生、迫力ある演奏でした。非常にレベルの高い素晴らしい合唱を披露してくれた2年生、どのクラスの発表も素晴らしく、思いと情熱のつまった感動的な発表でした。最後の合唱祭にける想いを演奏にのせ、感動的な発表をしてくれた3年生。圧巻の演奏を、私たちに聴かせてくれました。特に、3年生の合唱は、かけがえのない素晴らしい宝物を1、2年生や私たちに残してくれました。本当に素晴らしい合唱祭となりました。確かな学級、学年の絆と大きな成長を見ることができました。講師をお願いした清水先生や一ヶ月本校に勤務していただき、当日かけつけてくれた米木先生からは「1年生から3年生までこんなに歌える学校を私は知りません。本当に素晴らしい。3年生が1、2年生を育てていますね。」とたくさんのお褒めの言葉をいただきました。ここに、講師をつとめていただいた清水岳人校長先生(日川小学校)の学年合唱の講評を掲載させていただきます。結びに、当日来校いただきました保護者の皆様方、本当にありがとうございました。会場の収容人数の関係で、お子さんの学年だけの参観になってしまったことをこの場をお借りしてお詫び致します。それにも関わらず、さくら連絡網で温かいコメントを多数いただきましたこと、感謝申し上げます。

<講師の清水先生から>

○1年学年合唱『明日へ』 指揮：岡田歩士さん 伴奏：安室咲希さん

中学校に入学して半年強の1年生が、このレベルで合唱を奏でることに度肝を抜かれ驚嘆しました。きちんとアナリーゼされた音楽づくりを強く感じましたし、1年生離れしたサウンドは他に類を見ない聴く者の心を驚嘆みにしていました

「明日へ」は、富岡博志先生が作詞作曲された、とても力強く温かいメッセージが込められた合唱曲です。この曲は、未来への希望や夢を追いかける心を描き、どんな困難にも立ち向かながら前に進んでいく勇気を与えてくれます。多分この曲を仕上げる過程は、そう簡単ではなかったと思います。練習を始めた頃は思ったような音圧がでず、音程もままならず、リズムの切れも表現できず、音楽が前に進まず四苦八苦したのではないかと思います。しかし、今日の皆さんの歌声を聴く限り、旋律からは優しさと力強さを感じました。その上に豊かで重厚なハーモニーが加わることで、歌詞のメッセージがさらに心に深く響きました。特にサビの部分では、明日への希望が広がるような開放感があり、歌い手も聴き手も共に明るい未来へと導かれているように感じました。皆さんの歌声を通して「明日へ」のメッセージが会場に届けられ、多くの人に元気と勇気を与えたと思います。歌い手の皆さんも、この曲を通じて自分の気持ちや信念を強く持ち続け、どんな未来であっても乗り越え、力強く切り拓いていってくれと信じています。最後に、ここまで完成度の高い音楽を表現できたのも、仲間を信じ、人知れぬ厳しい練習を積み重ね、たゆまぬ努力をしてきたからこそであり、その証でもあ



と思います。今日はその練習の成果が鬼気迫る音からビシビシ伝わってきました。敷島中学校の合唱文化は大変価値のある素晴らしい伝統です。これからも永年にわたり、先輩から後輩へとこの伝統を引き継ぎ、更に発展させていってくれることを心から願っています。

〇2年学年合唱『名づけられた葉』 指揮：丸山明莉さん 伴奏：羽鳥花歩さん

ドラマチックで、かつストーリー性のある極上のサウンドカのメッセージ性の強い歌声は、ピーンと張りつめた体育館に、どこまでも響き渡り、聴衆の皆さんの心の奥底に突き刺っていました。私はただただ、皆さんが奏でる音楽に圧倒され、言葉を失ってしまった感覚に襲われてしまった…；そんな印象的かつ強烈なインパクトのある合唱でした。特にテンポ感が素晴らしく、自分たちが一番表現しやすいテンポを導き出し、最後まで叙情的に歌い切ったことは大変立派でした。この曲は自然と人の繋がりを象徴的に描いた美しい



合唱曲です。この曲は、まるで一枚の葉が風に揺れながら語りかけるように、人間の生命の儚さや、その中で育まれる希望や絆を感じさせてくれます。歌詞には、葉が名付けられることで個としての意味を持ち、誰かに存在を認められる瞬間の尊さが表現されています。また、歌う皆さんの表現力が素晴らしく、葉一枚一枚に宿る命が輝くような想いが伝わってきました。皆さんがこの曲を通して、自然や他者との繋がり、そして自分自身の存在についても考える機会を持てたのではないのでしょうか。これからも心に響く歌声を大切にし、それぞれの「名付けられた葉」として輝き続けてください。最後になりますが、シーンと静まり返った体育館に染み渡るように響き渡る第2学年の渾身の合唱…。「ポプラの木にはポプラの葉…」の歌い出しがとても印象的で、今でも私の心の中に深く残っています。また、凛とした立ち姿、真剣な眼差し、高い集中力に2年生の鬼気迫る思いと情熱を感じずにはいられませんでした。来年はいよいよ最上級生ですね。「光陰矢の如し」この名門敷島中の合唱文化を先輩から引き継ぎ、後輩へ繋げてくれると信じています。頑張ってください。

〇3年学年合唱『リフレイン』 指揮：白鳥美鈴さん 伴奏：種田愛子さん

凛とした立ち姿、指揮者を真っすぐに見つめる真剣な眼差し、堂々とした風格は他を寄せ付けないほど圧倒的で、最上級生として君臨する所以を身をもって示してくれました。また、汚れのない染み渡る音色、遠くへ遠くへどこまでも響き渡る極上のハーモニー、洗練されたサウンド、厚みのある音の重なり、幻想的でロマンチックな歌声に心から感動を覚えました。自然と目から涙があふれ、頬を伝うのがわかりました。やはり3年生の合唱は別格であり、最上級の品格を感じます。また、連綿と受け継がれてきた合唱文化とその伝統の重みを感じ、敷島中だけが持つストレートでメッセージ力のある、語りかけるような音楽に心を



奪われたのは私だけではないと思います。音楽構成やその解釈についても、ひとりひとりが深く理解しているからこそ実現できる、最高級な音楽でもあったと思います。また加えて、皆さんの歌声からは、過去の思い出やそこに込められた感謝の気持ちがしっかりと込められており、聴いている人々に共感と安らぎを与えていたことは言うまでもありません。そして、「一音入魂」とでもいいでしょうか…；皆さんのリフレインが敷島中の新たな歴史に名を刻んだ瞬間でもあったと言えるでしょう。これからも「リフレイン」（繰り返されるメロディーと歌詞の中に、過去の思い出や人との絆を美しく紡ぎ出した合唱曲）のように、過去を大切にしながら新しい未来に向かって突き進んでいってほしいと思います。きっと後輩たちも皆さんの歌声をしっかりと胸に刻み、音楽文化を継承し、発展させていってくれるに違いありません。ただただ今日だけはこの歌声に身をゆだね、心行くまでいつまで浸っていたい…そんな気持ちになりました。唯一無二、感動する素晴らしい合唱を聴かせてくれて、本当にありがとうございました。3年生の人生に幸多きことを願っております。